

リハビリテーション技術部 レジデント研修概要

神戸市立西神戸医療センター
リハビリテーション技術部

初版:2025年2月

目 次

基本方針	3
研修概要	3
研修責任者	4
臨床研修協力施設	4
研修カリキュラム概要	5
到達目標	6
研修予定表	8
研修内容	10
指導体制	11
指導評価	11
評価表	12

基本方針

実務経験に根ざした講義聴講と臨床実務実習を通して、急性期医療・地域連携に対応した臨床能力を身に付け、チーム医療を実践できる理学療法士を養成する。

研修概要

日本理学療法士協会生涯学習プログラムに準拠したうえで作成した当院独自のカリキュラムによる講義及び臨床業務を通じて研修を行う。

[1年目]一般コース

基礎的な急性期医療に対応できる知識・技術を修得する。

[2年目]専門コース

一般コース修了後、さらに高度な臨床業務を経験する中でチーム医療を実践できる実力を修得する。

研修責任者

責任者： 田中 利明(リハビリテーション技術部 技師長代行)

副責任者： 垣内 優芳(リハビリテーション技術部 主査)

 筧 哲也(リハビリテーション技術部 主査)

 横井 佑樹(リハビリテーション技術部 主任)

 小林 光(リハビリテーション技術部 主任)

臨床研修協力施設

- ・ときわ病院(回復期)
- ・伊川谷病院(地域包括ケア)
- ・総合リハ訪問看護ステーション(生活期)

研修カリキュラム概要

1) 実地研修

・1年次: 一般コース

運動器疾患・脳血管疾患・呼吸器疾患・心大血管疾患(・がん疾患)のリハビリテーションをローテーションし、基本的な臨床能力を修得する。また、診療科回診・病棟カンファレンス・チーム医療に参加する。

・2年次: 専門コース

集中治療領域・心臓リハビリテーションに参加するとともに、希望に合わせて専門病棟・チーム医療など選択する。他施設での見学研修(回復期・地域包括ケア病棟・在宅訪問リハビリテーション)を行う。

2) 実務実習生指導

年間を通して実務実習生の指導を行う。

3) 学術活動

兵庫県理学療法士会支部主催の新人発表(症例報告)、兵庫県理学療法学会大会で学会発表(症例報告)を行う事を目標にしている。

到達目標

	1年目		2年目	
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
到達目標	<p>①医療職として必要な基本姿勢と態度について理解し、実践する。</p> <p>②指導者付き添いの下、患者の治療を実践できる。</p> <p>③運動器・脳血管・結核の基本的知識・技術を理解する。</p>	<p>①常に医療職として必要な基本姿勢と態度を自覚した行動がとれる。</p> <p>②1人で患者の治療を実践できる。</p> <p>③呼吸器・循環器・がんにおける基本的知識・技術を理解する。</p>	<p>①指導者付き添いの下、ICU患者の知慮を実施出来る。</p> <p>②各疾患の知識・技術を臨床に応用できる。</p> <p>③チーム医療を理解し、役割を果たす事ができる。</p>	<p>①1人でICU患者の治療を実施出来る。</p> <p>②合併症のある重症患者に対し、各疾患の知識・技術を臨床に応用できる。</p> <p>③チーム内の信頼関係を保ち調整できる。</p>
基本的マナー・コミュニケーション	<p>①社会人としてのマナーを習得する。</p> <p>②指導者などに必要な事項を報告・連絡・相談ができる。</p> <p>③部署内において適切にコミュニケーションがとれる。</p>	<p>①医療人として基本的な対応ができる。</p> <p>②指導者などに的確な報告や情報提供ができる。</p> <p>③他職種、患者や家族と適切にコミュニケーションがとれる。</p>	<p>①患者・家族に対し、医療チームの一員としての対応法を理解し、対応できる。</p> <p>②周囲に配慮し、適切な援助を行うことができる。</p>	<p>①重症部門の患者・家族に対し、医療チームの一員として対応できる。</p>
リスク管理	<p>①リハビリテーションにおける安全対策を理解することができる。</p> <p>②一般病棟患者の危険を予測し、指導者の指導の下、安全対策を立てることができる。</p>	<p>①リハビリテーションにおける安全対策を実践できる。</p> <p>②一般病棟患者の危険を予測し、1人で安全対策を立てることができる。</p>	<p>①重症部門の患者の危険を予測し、指導者の指導の下、安全対策を立てることができる。</p>	<p>①重症部門の患者の危険を予測し、1人で安全対策を立てることができる。</p>
リハビリ実践	<p>①マニュアルを活用し、助言を受けながら、正確に業務を遂行できる</p> <p>②指導の下、一般病棟の患者の治療を実施できる</p> <p>③カンファレンス等で積</p>	<p>①1人で正確に業務を遂行できる。</p> <p>②1人で一般病棟の患者の治療を実施できる。</p> <p>③指導の下、カンファレンス等で症例発表がで</p>	<p>①指導の下、重症部門の患者の治療を実践できる。</p> <p>②指導の下、他職種とともに退院調整の援助ができる</p> <p>③1人でカンファレンス</p>	<p>①1人で重症部門の患者の治療を実践できる。</p> <p>②1人で他職種とともに退院調整の援助ができる。</p> <p>③カンファレンス等で積</p>

	極的に質問ができる。	きる。	等で症例発表ができる。	極的に自分の意見を発言することができる。
教育・研究	①リハビリにおける基礎知識を理解する。 ②院内の勉強会に参加し、自己学習できる。 ③担当症例についてまとめ、症例報告ができる。	①各疾患の基礎知識を理解する。 ②院外の勉強会・学会に参加し、自己学習できる。 ③新人発表を行える	①自己の課題を考え、資源を活用し、課題に積極的に取り組むことができる。	①自己の課題に対して、学会発表を行える

※基本的マナー・コミュニケーション、リスク管理、理学療法実践、教育研究能力について、目標を定め、それぞれについて半期毎に、自己評価、指導者評価を実施する。

研修予定表

PTレジデント1年目スタッフ年間スケジュール

	OJT	Off-JT
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常業務の指導（事務的業務、カルテ管理） ・ 医療安全管理、感染対策 ・ 臨床業務指導（処方から退院までの流れ、カンファレンス同行など） 担当患者：4～5名（運動器）	<ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション開催（施設・部署レベル） ・ 基本姿勢・態度の指導（身だしなみ・態度等） ・ 患者・家族に対する接遇 ・ 疾患別の研修会開催（運動器）
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整形外科回診、整形外科病棟カンファレンスへの参加 ・ N95マスクフィッティング 担当患者：7～8名（運動器、結核）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疾患別の研修会開催（結核） ・ 症例検討会への参加
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休日出勤の実践 担当患者：10名（運動器、結核）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 症例報告（運動器）
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外来リハ開始（松葉杖貸し出し・指導） 担当患者：10名（運動器、脳血管、結核）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疾患別の研修会開催（脳血管）
8月	担当患者：10名（運動器、脳血管、結核）	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標評価（1回目） 担当患者：10名（運動器、脳血管、結核）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 症例報告作成（脳血管） ・ 回復期リハビリテーション病院見学
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外来リハ開始（松葉杖以外の運動器） 担当患者：10名（運動器、脳血管、呼吸器、結核）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疾患別の研修会開催（呼吸器） ・ 新人症例発表準備開始
11月	担当患者：10名（運動器、脳血管、呼吸器、結核）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域包括ケア病棟見学
12月	担当患者：12名（運動器、脳血管、呼吸器、結核）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 症例報告（呼吸器）
1月	担当患者：12名（運動器、脳血管、呼吸器、心大血管、結核）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疾患別の研修会開催（心大血管）
2月	担当患者：12名（運動器、脳血管、呼吸器、心大血管、結核）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問リハビリテーション見学
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標評価（2回目） ・ 1年の振り返り 担当患者：12名（運動器、脳血管、呼吸器、心大血管、結核）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 症例報告（心大血管）

PTレジデント2年目スタッフ年間スケジュール

	OJT	Off-JT
4月	・ICU介入開始 ・チーム医療への参加（希望分野） 担当患者：15名	・疾患別の研修会開催（集中治療）
5月	・外来心臓リハビリ開始 担当患者：15名	
6月	担当患者：15名	
7月	担当患者：15名	・症例報告作成（集中治療）
8月	担当患者：15名	
9月	・到達目標評価（3回目） 担当患者：15名	・兵庫県理学療法学会にて症例発表
10月	担当患者：15名	
11月	担当患者：15名	
12月	担当患者：15名	
1月	担当患者：15名	
2月	担当患者：15名	
3月	・到達目標評価（4回目） ・1年の振り返り 担当患者：15名	

実務研修

- 1) リハビリテーション業務
一般病棟、救急病棟、ICU、心臓リハビリテーション等
運動器・脳血管・呼吸器・心大血管・がん疾患
- 2) 病棟カンファレンス参加
- 3) 診療科回診参加
- 4) チーム医療参加

講義研修(例)

- 1) 疾患別講義(病態生理・リハビリテーション)
- 2) 症例検討会
- 3) 医療安全
- 4) 感染対策
- 5) 診療報酬
- 6) EBPT

実技研修(例)

- 1) トランスファー研修
- 2) 急変時対応・BLS
- 3) 医療安全(人工呼吸器管理など)

学術研修

- 1) 部内と兵庫県理学療法士会支部主催による新人発表(症例報告)
- 2) 県学会発表(症例報告)

指導体制

登録理学療法士以上の担当指導者1名が主の指導者となる。疾患のローテーション時にはそれぞれの疾患別の担当者(登録理学療法士以上)も指導に当たる。

レジデントは半期に一度、クリニカルラダーによる到達目標評価を自己評価し、指導者による評価・フィードバックを受ける。

指導評価

研修における評価は評価表を用いて行う。レジデント本人がそれぞれ自己評価を作成し、指導者はレジデントに対して研修のフィードバックを行う。

評価方法は4段階評価とし、各項目1,2,3,4の絶対評価とする。4段階評価は次のような評価を基本とする。

【4段階評価】

- 1:未実施
- 2:見学
- 3:指導(監視)下
- 4:自立

領域	項目	自己評価	指導者評価
基本的マナー コミュニケーション	1 医療人としての身だしなみ・態度・挨拶がきちんとできる		
	2 整理・整頓を心がけ、働きやすい環境を整備することができる		
	3 医療倫理に基づき、人間の尊厳を尊重して行動する		
	4 チーム医療の構成員としての役割を理解し、連携がとれる		
	6 個人情報保護に関する知識を持ち行動することができる		
	7 ハラスメントに関する知識を持ち行動することができる		
	8 職員へ適宜、報告・連絡・相談ができる		
	9 対象者・家族に対して節度を持った言葉遣いで接することができる		
	10 対象者・家族に分かりやすい説明をすることができる		
	11 対象者のプライバシーおよび個人情報を保護することができる		
	12 対象者・家族の話を傾聴し、コミュニケーションをとることができる		
	リスク管理	1 当院の医療安全管理について理解している	
2 ドクターハリーの方法を確実に覚えている			
3 インシデント・アクシデントレポートを作成・報告ができる			
4 AED、救急カートの保管場所を知っている			
5 急変時のBLSが実施できる			
6 標準予防策（スタンダードプリコーション）が適切にできる			
7 転倒転落防止策を実施できる			
8 バイタルサインを正確に測定出来る			
9 カルテにて必要な情報（合併症・既往歴・投薬状況）を確認出来る			
10 術式や手術侵襲の確認が行える			
リハビリ実践	1 意識レベルを判定できる		
	2 関節可動域、感覚、筋力、疼痛、ADLなどを評価することができる		
	3 運動器疾患に関する特異的なスケールを用いて評価することができる		
	4 中枢神経疾患に関する特異的なスケールを用いて評価することができる		
	5 内部障害疾患に関する特異的なスケールを用いて評価することができる		
	6 在宅環境の情報収集ができる		
	7 関節可動域運動を実施できる		
	8 筋力増強運動を実施できる		
	9 バランス練習を実施できる		
	10 基本的動作練習を実施できる		
	11 移動動作練習を実施できる		
	12 各種車椅子・福祉用具等の選定・調整・操作を行うことができる		
	13 義肢・装具の適合を確認することができる		
	14 自主練習の方法を対象者・家族等に指導することができる		
	15 介助方法を家族・職員等に指導することができる		
	16 所属施設に関連する診療・介護報酬の内容を理解している		
	17 計画書等の作成開始から終了までの流れを理解している		
	18 担当対象者の申し送りなどの連絡報告ができる		
	19 カルテ管理・操作を理解し、生化学・画像データ等を確認できる		
	20 診療記録を適切に記載できる		
	21 添書等の他施設への情報提供を適切に行うことができる		
	22 福祉用具・補装具等の処方から完成までの流れを理解している		
教育・研究	1 自己評価と他者評価を踏まえて自分の課題をみつけ目標設定ができる		
	2 診療などに関する疑問を解決するために、文献を検索することができる		
	3 施設外の研修を自ら調べ参加することができる		
	4 生涯学習システムを理解し、どの時期までに何を受講すべきか理解出来ている		
	5 助言を受けながら、症例報告を発表することができる		